

社団法人 東京都社会保険労務士会

中央支部会報

発行所 (社)東京都社会保険労務士会中央支部 発行人 小山 昇
東京都中央区日本橋室町1-14 TEL (241) 1551 編集人 清水誠三郎

転 換 時 代

支部長 小 山 昇

石油ショック以来、国際諸情勢は大きな転換を急速におし進めてきています。

わが国においても、高度経済成長から安定経済成長へと、経済社会の諸事情の変化は、「転換時代」を強く認識せざるを得ない現状にあります。そしてその現状は、今春闘において一端を明らかにしているように思います。つまり昨年の春闘は、狂乱物価のアオリにより、平均 32.9% という異常なベアが行なわれました。ところが本年は、国の経済施策であった消費者物価指数が 14% の上昇率で目的が達成され、また経営団体で決定された賃上げ率、15% のガイドラインなどが大きく影響し、スタグフレーション下の春闘での賃上げ率は、平均13~14%台で妥結をみたのが現況です。この現況は経営側では極めて常識的な、労使の歩みよりとみており、労働側では、賃上げ率15%以下の妥結について、大きな反省がなされているようです。

いまや不況下における企業防衛の為の合理化、特に、雇用政策についての転換、つまり具体的には雇用調整(人員整理、レイオフなど)が実施され、その結果、有効求人倍率が0.7台となり、1を割った雇用事情となっています。そして、その事情を労働側からみると、「就業か、失業か」という重大な生活不安を惹起した現象であり、結局このような両者の関係が一つの理由となって、前述のような妥結におよんだものと考えられます。これはまさに、労働市場において、経済法則である需給関係の「逆転時代」となったことが明らかにされた現象です。

そこで、このような経済社会の転換時代に、私達が仕事をする上で、どのような考え方で活動するかについて、その一方法を模索してみました。すなわち、不況下のしかも不安定な社会環境のなかで、特に、これからの中小企業の存立諸条件もかわってくるのではないのでしょうか。従って私達の専門的分野であり、基本的業務である「人事労務管理」を質的に掘り下げ研究し、その知識を基調として、業務を拡大してゆくような考え方に、転換せざるを得ないものと思います。たとえば、

- イ、企業努力に能力を十分発揮でき得る人材の確保。
- ロ、能力にみあう適正、公正な賃金、および労働時間など。
- ハ、人材を企業内部からつくりあげる教育訓練。
- ニ、気分転換を図り、仕事に全力投球することのできる余暇利用の為の福利厚生など。

の施策が大いに従業員の資質向上と、定着性の向上を具体化することと思います。つまり個別企業における雇用管理の実践が企業の繁栄と労働者の福祉向上に、応えることになると考えます。

こうした方向こそ、私達が良きコンサルタントとして、使命を果すことになるのではないのでしょうか。

昭和も半世紀、まさに昭和の歴史を顧みると共に、私達の歩んできた道をふりかえり、「量から質」へと転換すべき時代を、心新たに認識し、転換に努力しようではありませんか。

総会だより

昭和50年4月11日千代田区二番町の中央労働基準協会に於いて、第4回定時支部総会を開催し、下記の各号議案を可決しました。

(1)昭和49年度事業報告

定期総会。月例会（含研究会）、9回
幹事会、7回。正副支部長会議、6回
労働保険無料相談コーナー、2回
会報発行、4回。懇親旅行。野球大会

月例会においては、研究会を主体とし、安全衛生法の研修が5回に亘って実施され、会員の質的向上に資しました。貸金実態調査については、前年通り会員の相互理解の下に実施され、会報第11号で発表配付されました。又支部功労者に対し記念品を贈呈し、謝意を表しました。

(3)昭和50年度事業計画

幹事会		月例会(研究会)		幹事会		月例会(研究会)	
月	日時	日	時	月	日時	日	時
4	11(金)1.00	11(金)	1.30	10	9、10(休)1.00旅行	9、10(休)	旅行
5	9(金)1.00	9(金)	1.30	11	7(金)1.00	7(金)	1.30(2.30)
6	13、14(土)旅行	13、14(土)	旅行	12	5(金)忘年会		
7	11(金)1.00	11(金)	1.30(2.30)	1	9(金)新年会		
8	夏休み			2	13(金)1.00	13(金)	1.30(2.30)
9	12(金)1.00	12(金)	1.30(2.30)	3	12(金)1.00		

場所：中央労働基準協会々議室

(2)昭和49年度収支決算書

収入金額 1,198,783円
支出金額 860,468
次期繰越額 338,315

(4)昭和50年度収支予算書

収入予算金額 758,315円
支出予算金額 758,315
次期繰越金額 0

収入の部

科 項	目 目	決算額	予算額
本部交付金	交 付 金	456,200	420,000
事業収入	事業収入	364,500	160,000
雑収入	雑収入	42,469	5,000
前期繰越金	前期繰越金	335,614	335,614
借入金	借 入 金	0	0
合	計	1,198,783	920,614

収入の部

科 項	目 目	予算額	前年度 決算額
本部交付金	交 付 金	400,000	456,200
事業収入	事業収入	0	364,500
雑収入	雑収入	20,000	42,469
前期繰越金	前期繰越金	338,315	335,614
借入金	借 入 金	0	0
合	計	758,315	1,198,783

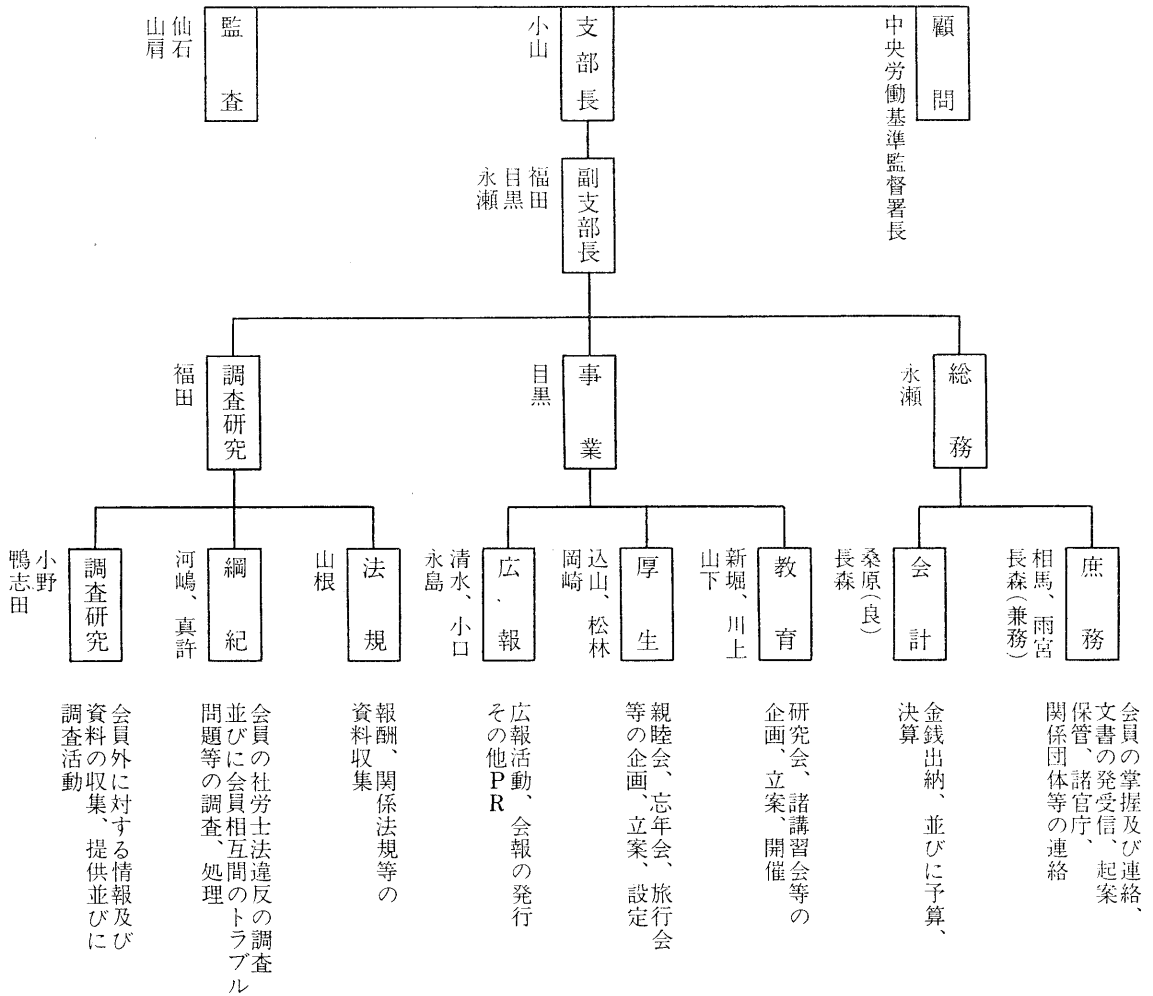
支出の部

科 項	目 目	決算額	予算額
会議費	総 会 費	14,030	20,000
	幹事会費	0	10,000
	月例会費	28,500	20,000
事務費	旅費交通費	7,500	12,000
	印刷費	39,300	110,000
	通信費	27,735	20,000
	図書資料費	0	5,000
	調査研究費	195,795	70,000
	雑 費	44,500	30,000
	事務費	2,090	2,000
事業費	研究会費	18,000	70,000
	会報費	182,400	90,000
	懇親会費	100,618	200,000
借入金	借 入 金	0	0
予備費	予 備 費	0	61,614
基金	基 金	200,000	200,000
合	計	860,468	920,614

支出の部

科 項	目 目	予算額	前年度 決算額
会議費	総 会 費	20,000	14,030
	幹事会費	10,000	0
	月例会費	20,000	28,500
事務費	旅費交通費	10,000	7,500
	印刷費	50,000	39,300
	通信費	70,000	27,735
	図書資料費	5,000	0
	調査研究費	10,000	195,795
	雑 費	20,000	44,500
	事務費	5,000	2,090
事業費	研究会費	30,000	18,000
	会報費	140,000	182,400
	懇親会費	150,000	100,618
借入金	借 入 金	0	0
予備費	予 備 費	18,315	0
基金	基 金	200,000	200,000
合	計	758,315	860,468

中央支部機構担当図



本部・支部役員名

本部役員

- 1、柏木理事 (副会長)
- 2、石原理事 (事業委員長)
- 3、小山理事 (教育委員長)
- 4、目黒理事 (教育委員)
- 5、永瀬理事
- 6、真許監事

支部役員

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 1、石原健三 | 10、永島セツ | 19、岡崎正義 |
| 2、小野伝三 | 11、福田博 | 20、桑原良治 |
| 3、柏木高美 | 12、山根松夫 | 21、雨宮功 |
| 4、川上芳男 | 13、目黒健 | 22、新堀英行 |
| 5、込山元喜 | 14、河嶋平助 | 23、小口隆明 |
| 6、清水誠三郎 | 15、小山昇雄 | 24、山下大九郎 |
| 7、相馬誠一 | 16、松林清雄 | 監査 |
| 8、永瀬進一 | 17、真許碩義 | 1、仙石晴一 |
| 9、長森敏泰 | 18、鴨志田真己 | 2、山肩良政 |

総務部だより

総務部担当 永瀬進一
副支部長

旧年度は会員諸兄のご協力を得て、無事責務を遂行することが出来ましたことを厚く御礼申し上げます。本年も変らぬご協力ご指導を賜ります様、お願い致します。本年度は総務の担当が下記の如くとなりましたので重ねてお知らせ致します。

総務総括 庶務 会計

(永瀬) (長森、相馬、雨宮) (長森、桑原(良))

新会員紹介

1. 奈良 孝雄	社会保険労務士事務所	内神田 3-8-4 長嶋ビル	(256) 8 4 5 0
2. 田村 稔	中央経営労務協会社会保険部	飯田橋 4-4-1	(265) 2 9 9 8
3. 笠原 章男	社会保険労務士笠原章男事務所	西神田 1-2-15	(295) 0 2 3 4
4. 大槻 哲也	中央経営労務管理事務所	八丁堀 3-8-3	(553) 1 6 8 3
5. 桑原 善生	桑原事務所	神田神保町 1-69 加藤ビル	(291) 4 1 6 4
6. 井上 芳雄	井上福事務所	銀座 1-6-10 皆川ビル山下事務所内	(561) 4 0 0 3
7. 中西 実		千代田区内神田 1-16-2	(292) 8 2 8 3

住所変更

1. 新堀 英行	新堀労務管理事務所	神田須田町 1-20 石神会館 3F	(254) 1 9 5 5
2. 加藤 平雄	労務管理センター	紀尾井町 3 平安書店内	(239) 0 2 4 1

事業部だより

事業部担当 目黒 健
副支部長

冒頭に過年度の支部事業活動を回顧、反省してみたいと思います。

教育、厚生、広報の各部内活動については、それぞれ担当委員の諸先生の献身のご活躍によって、定時総会の事業報告書でご案内の通りの成果をあげることができました。紙上をかりて委員諸先生の一年間のご苦勞と会員の皆様のご協力に対して心から謝意を表する次第です。

しかし、支部事業の総括を委ねられている私としては、少からぬ会員の方のご要望を受けて、年度初頭に構想したコミュニケーションによる会員の意思の交流という課題に取り組み得なかったことを反省して、自責の思いを深くするものです。

“中央支部は東京会のモデル支部である”とはよくいわれる言葉です。それは中央支部が行政の中核地域に所在しかつ本部と近接して位置していること、90名近い多数の会員を擁していること、斯界のリーダーとして活躍してられる数人の偉い先生が会員の中におられること、そしてまた支部結成以来歴代支部長以下執行部の運営よろしきを得て支部の機構、

体制が整然と確立され、幾多の評価すべき業績をあげていること等によるものと考えます。

しかし、複雑多岐にわたる社会保険労務士業を職業とするわれわれが構成員であり、また法施行後僅か6年しか経過しない未熟な業界の現状では、支部の運営にさまざまな問題があることを否定できません。少からぬ人々が支部ならびに当社労士会に疎外感をもっていることも厳然たる事実です。

一個の開業社会保険労務士としての同等の資格で参加しているわれわれ会員は、共通の利益を指向すべき支部運営に関して、基本的に平等な権利と義務が保障されていることは当然です。この理解の下に公開の場においてなされる隔意ない意見交換と討議(コミュニケーション)が相互の理解と連帯(仲間意識)を生み、陰湿な“声なき声”を止揚して形式だけでない実質的“モデル支部”の創造に通じ、ひいてはこのことが社労士会運営に反映されるのではないのでしょうか。

3月7日および5月16日の事業部会において、各委員の相談の結果、50年度の事業活動はこのような

趣旨を踏まえて“コミュニケーションによる明るい中央支部の確立への努力”を最重点方針として施策することに決定しました。

コミュニケーション

日ごろから、教育委員活動にご協力下さいましてありがとうございます。

支部の教育活動は、本部教育計画の一部として、実務面を重点的に分担するという趣旨のもとに、実施されてきました。昨49年度は、二次産業の比較的小さい中央支部にあって弱点と見られる「安全衛生」を5回にわたって、シリーズでとりあげ、かなりの成果をあげることができました。しかし、参加会員数も二十名を最高に、次第に減って、十名を割ることさえあったことを反省し、今年度は、年度始めに、アンケート調査を行い、その結果を参考にして検討し計画を作成しました。

事業部方針としての、会員相互のコミュニケーショ

参 加

私が東京の片隅の小さな一室に、労務管理事務所という名の産声をあげたのも思い起こせば二十年前のことになります。開業当初はご他聞にもれず、得意先の獲得に日夜努力を傾注し、汗と涙の奮戦にあけくれたことは、この記事をお読みになる皆様方にも、程度の差こそあれ共感していただけたと思います。苦斗数年、やっとかちえた何社かの顧問先から得る報酬とて何の基準もなく、全く自己の判断にまつしか手段ありませんでした。当時の実態はおおよそ労務管理などとは無縁のいわゆる社会保険代行業者であったと思います。“井の中の蛙大海を知らず”の状態に悶々としていた折に、われわれをとりまく状況は急激な進展をとげ、われわれの資格も先輩諸先生のみなみならぬご努力の結果法制化されるに

反 省

先輩諸兄の教えを忠実に守って、担当職責を完うするための努力を重ねていますが、仲々うまくいかず失敗の連続をしています。またかと気付いた時は、刷り上っていてどうにもなりません。経験の浅さを深く反省しています。会報の使命は、今更申し述べなくともお解りのことですが、担当の役割は大きく、会員諸兄から“あゝ、しろこうしろ”との叱咤を、

会員諸士の積極的参加によるご協力を得て、及ばずながら残る一年の任期を全うしたいと思っています。

教育担当 新堀英行

ンをはるかため、意見、情報交換の場に、数多くの機会を設けます。これは日常業務の問題を含めての勉強の場にもなることでありますので、従来の研修回数を年四回にしばり、テーマも時宜に適したものをその都度検討して決め実施することにしました。その第一回を去る5月16日(金)、中央労政事務所鈴木所長を講師に迎え、「春斗の結果」を分析、解説してもらい、ひじょうに内容のある研修会を行うことができました。

今後、より充実した教育活動が行えますように、会員の皆様の積極的意見をお寄せいただきたく、また、参加下さいますようお願いします。

厚生担当 込山元喜

到りました。欣喜雀躍支部に入会し、日光川治の支部旅行会に初参加して60人の同志に紹介されたときの晴れ晴れした充実感は今もって忘れることができません。

しかし、残念ながら現在のこの会には発足当初の活気に満ちた運営がみられないと感じるのは私の偏見でしょうか。執行部の諸先生方が会の発展と会員の資質向上に献身的努力をされているにも拘らず、“笛吹けど躍らず”の感があるのは誠に残念です。その責任は私達会員一人一人にあることを銘記し、今後はあらゆる行事に進んで参加し明るい中央支部の再現に邁進して行こうではありませんか。私は厚生担当の一委員として、すくなくともこの面で精いっぱい努力をしたいものと考えております。

広報担当 清水誠三郎

どしどし頂きたいと念願しています。1部会員の意見交換だけで、終始していくことを恐れています。

会員各位の会報、これが使命なのだから、あらゆる支部の動きを網羅した会報に育てて貰いたい。そしてそれが吾々社労士の資質の向上に、且又業界発展のPRになるものと期待して止みません。

春季旅行記

会員諸士が長い間の楽しみにしていた中央支部の春季親睦旅行会は6月13日(金)14日(土)の両日、西伊豆堂ヶ島温泉一泊で行なわれました。今回はPRがくれたこともあり、僅か13名の参加者にとどまったことは残念でした。

梅雨時で天候が懸念されたのですが、幸い当日は薄日もさすまずの空模様、かえって暑さを感じさせず好都合でした。

一行は新幹線で東京駅発、三島経由で沼津へ、沼津からハイヤーに分乗して西伊豆海岸の絶景を賞でながら堂ヶ島温泉ちどりホテルに到着。早速いで湯に旅の汗を流して支部長主宰の月例会を開催、くつろぎの中にも仕事を忘れぬ緊張のひとときがもたれました。

5時からの懇親宴会は、折から窓ごしに駿河湾に沈む形容しようもなく赤く大きく美しい夕日に嘆声をあげながら先ずは乾杯、宴たけなわとなるにつれて一行のつわものども、馬手に可愛い子ちゃん、弓手に盃、放歌高吟の美声、いろとりどりの舞い踊り

とよくもまあ芸達者ぞろいであることよと感じ入った次第です。宴会場からバー、ロビー、個室と親睦の宴はいつ果てるともなく、夜の更けるまでなごやかに歓談が続きしました。

翌朝はホテル提供の快速艇で天然記念物指定の洞窟めぐり、巨岩、奇岩に嘆声をあげ、洞窟の怪に息をのむ探勝の一時をもちました。帰路はさながら貸切船のような快速船コバルトアロウ号で蛍の光のメロディーに送られて、駿河湾を一路沼津港へ、以下は往路と同じコースで東京駅3時着、2日間にわたる親睦の旅を参加者全員堪能して大成功成裡に解散しました。

ふりかえって本当に楽しい旅行でした。これもひとえに中央支部のチームワークのよさによるものと思います。次の旅行会はより多くの方のご参加を得てより楽しいものであるように願うや切です。最後にこの旅行会に柏木、吉田両先生から過分のご寄附をいただきましたことを紙上をかりてお礼申し上げます。
(厚生委員 松林記)

